



Alpha Language Institute In Thailand (Thammasat University)

【海外実習レポート】

【プロフィール】

宮尾優理亜 専業主婦 もう何年も前のこと、コンビニでとても丁寧な日本語で接客する外国人店員の姿を見て、難しい敬語をどうやって学んだのだろうと思ったのがきっかけでアルファ国際学院の門を叩きました。実践Ⅱを終えて文型抜き出しノートに取りかかっていたとき海外実習ガイダンスがあり、学院長梶浦先生のお話を伺って以前から興味があった海外で実習してみたいという気持ちが強くなりました。そこで家族の協力のもと、スワンナプーム国際空港がまだ建設中の頃に訪れたことのあるタイでお世話になる決心をしました。



【実習】

授業は週3～4日、受け持ちは2クラス、グループレッスンと個人レッスンです。グループレッスンは週2回企業社員で JLPT 取得を目指す初中級クラス学習者4名、個人レッスンは週2回日常会話習得が目標の初級クラス学習者です。グループレッスンで担当した課は L26～L34 で、L26～L32 は次週に復習テストが予定されていたのでその対策として小テスト問題作成に取り組みました。その際来タイ直前に受講した清川先生の評価法が大変役に立ち指標となりました。L33～L34 の授業では、導入の場面設定においてうまくいったときもあれば学習者のきょんとした表情を見て焦ったこともあり、教科書通り忠実に進めていこうとするあまり授業そのものが単調になりそうになるなど教案作りに行き詰まったときは宍戸先生からいただいたアドバイスを取り入れたり実践Ⅱの谷内先生の講義を思い出しながら試行錯誤しました。個人レッスンで担当した課は L21～L22 で、学習目標に合うよう学習者の発言をより多くすることに徹しました。実践Ⅰで山中先生が解説してくださった授業方法を大いに活かし、また L22 は連体修飾だったので私の心の拠り所となっている森先生の初級文型の授業ノートを改めて読み返して授業に臨みました。両方のレッスンに共通して言えることですが、学習者が笑顔で大きな声でリピートしたり学習項目を利用して会話が弾んだりしたときは、教案を何度も考え書き直した努力が報われた気がして教えていてとても幸せに感じられた瞬間でした。



【日本文化紹介】

世界的な抹茶ブームの昨今、お茶を点てることを気軽に体験してもらえたらと思い必要最小限のお道具を持参しました。抹茶味はバンコク市内の様々なスイーツ店で多く見られ、大学構内にも FUKU MATCHA (看板に茶筌のマーク) という和風ドリンク専門店がありました。学習者は2杯点てるほど興味津々で、偶然にも34課とリンクしていたので和菓子と共に教科書の会話通りお作法を一緒に楽しみました。





Alpha Language Institute In Thailand (Thammasat University)

【海外実習レポート】



【タマサート大学プチ情報】

到着日から夕方雷雨に見舞われ、連日最高気温 37 度の中約 1 か月滞在しました。大学は都市部郊外にあり、大学に近い宿舎での生活はまるで学生に戻ったような気分でした。広大な敷地内にはバイクタクシー・無料循環バス・レンタル自転車など誰でも利用可能な交通手段があり私もお世話になりましたが、ワニと見紛うほどのオオトカゲ、暑いからか朝と日没頃にしか鳴かないセミ、求愛ダンスをする鳥など発見をしながら大汗かきつつ運動も兼ねて徒歩でも通いました。私が目にしたほんの一部の大学施設などを紹介しますと、大学図書館は 1 階が広いラウンジのような学習スペース、2・3 階は開架書庫と静かな学習スペースになっており、私は談話もできる 1 階で教案作成に取り組みましたが冷房がものすごく効いていて上着は必携でした。図書館の真正面は学問の神様でしょうか、静かに学生を見守っていらっしゃいます。授業時の数々の失敗を払拭すべく気分転換したいときにはプールを利用しましたが、25 メートルレーンが 15 以上あり選手気分を味わえました。夕方になるとスケートボード場は学生たちで賑わっていました。公式戦可能なサッカースタジアムがあり図書館帰りの或る日曜日の夜には試合で大勢の人が訪れて大歓声と花火の音が聞こえました。毎日の食事は屋台村や月・木曜日開催のナイトマーケットがあり私は主に果物を安価で豊富にいただきました。学習者が今一番流行っていると教えてくれた TAO BIN というオーダー形式の飲料自販機は、冷～温・ジュース～コーヒーまでたいの飲み物を網羅しており子供から大人まで大人気だそうで、メニュー一覧表になぜかカタカナ表記があり私も飲んでみましたがとても美味しかったです。

【バンコク鉄道プチ見聞録】

ニュースなど見て興味を抱いていた駅と路線を訪れました。国鉄バンスー一駅から見えた新しいバンスー中央駅は ASEAN 最大の鉄道拠点として期待されているとのこととても立派な建物でした。廃止が予定されているフアランポーン駅は歴史を感じさせる重厚な趣があり、偶然にも日本製蒸気機関車が到着した夕暮れ時はまるで絵画のよう。ノスタルジックな光景を目に焼きつけることができました。運行を開始したばかりで 1 か月間運賃無料のイエローラインは、前後車両が展望窓になっていて街の中心から少し離れた東部の車窓を楽しむことができました。ゴージャスカラーのゴールドラインは 2 両だけの編成で前後車両は展望窓になっており 3 駅間のみ折り返し運転というかわいらしくも国内初の全自動無人運転車両、チャオプラヤー川に近いせいかプラットホームでは心地良い風を感じました。近々ピンクラインの開通が予定されているとのこと。

